

桜が丘特別支援学校と議員との意見交換会の要旨

○参加者 議員：堤議員 学生：桜が丘特別支援学校2年生4人

○発表テーマ：「ふるさと納税」を活用した長崎県の離島・半島振興について

○意見交換会要旨

(堤議員)

政策提案では思いを伝えたいという気持ちを感じることができた。他県の事例なども交えながらの発表もあり、わかりやすく良かった。

(生徒)

議員や他校の生徒の前で発表する機会は初めてだったので、非常にいい経験となった。また、他校の発表を聞いて、新たな視点を発見することもできた。

(堤議員)

今回、どうやって発表するメンバーを決めたのか。

(生徒)

県議会から今回の政策提案・意見交換会の募集があった際に、1年生の時の現代社会の授業のグループメンバーで手を挙げたもの。

(堤議員)

ふるさと納税をテーマにしたきっかけは。

(生徒)

離島の振興という面と、ふるさと納税をマッチングしたらどうかと感じてテーマとしたもの。自分たちの学校のある川棚町のHPをみると、ふるさと納税があまり活発ではなかったことも要因である。

(堤議員)

ふるさと納税は地域でかなり格差がある。特産品がある自治体は人気があるが、特色がない自治体へはふるさと納税が集まらない。川棚町へのふるさと納税が少ないということは、自分の街に入る税金が少ないことになる。

長崎県は日本で一番離島が多く、人口減少も進んでおり、これは長崎県の最重要課題。長崎県が持続可能な地域として残っていくためには、離島・半島が住み続けられるような環境になることが必要。

政策提案の中で「新しい製品をつくるのではない」という発表があったが、これについて詳しく伺いたい。

(生徒)

ふるさと納税を返礼品として、一から新しいものを生み出すというよりは、既にあるものや資源を活用することができるのではないか。長崎県民が気づいていないものでも、県外の人が見れば興味を持つものがたくさんあるのではないか。

(堤議員)

ふるさと納税以外でも、県外・国外の人が長崎県にお金を落としてもらう取組みも必要。様々な取組みができるような視点も大切だと思う。

(桜が丘特別支援学校先生)

生徒達は他の行事も多く、時間が限られた中で一生懸命準備をして今日の発表に臨んでくれた。

最初にこの話が来たとき、生徒が断らずに前向きに取り組んでくれたことが非常に嬉しく思う。

また、子供達はみんな疾患を持っており、日常の学習も空白がある中で、自分たちのペースでしっかり取り組んでいた。

同世代の人たちと同じ取り組みをするということが、ほとんどないので、今回は非常にいい機会・経験であり、自信にもなったと思う。

4人がみんな、地元の長崎を良くしたいという気持ちで取り組んできた内容が、今日は非常によい形で表現できたと思う。本当に貴重な経験ができたのではないかな。

(堤議員)

自分も議員1期目で日々勉強をしている状況。市民・県民の声を県政に届けるため、長崎県を良くするために、日々努力しているところ。

長崎を良くしたいという思いは皆さんと一緒にあり、一緒に長崎を良くしていければと思う。